



上堺小学校 1年  
伊藤 颯汰

ポスター  
特選



横芝中学校 2年  
川島 あやめ

ポスター  
特選

第8回

標語・作文・ポスター入賞作品  
福祉のまちづくり

標語 特選

日吉小学校 5年 郡司 堅央



おらが町

福祉という花

咲かせよう

## 入賞作品一挙に紹介！

社会福祉協議会では、「ふれあいと支え合いの精神に満ちた心豊かな福祉のまちづくり」を進めるため、福祉教育の一環として町内小・中学校児童・生徒から標語・作文・ポスターを募集したところ、総数324点の作品が寄せられました。

応募いただいた作品の中から、各部門別に特選・入選・佳作の入賞作品が決定しました。

### 作文特選

横芝小学校 6年

高橋 光明



## 『介助犬の福祉体験をして』

みなさんは、介助犬を見たことがありますか。ぼくは、テレビでは見たことはあるけれど、実際はくの町で介助犬を連れてくる人を見たことはありませんでした。

夏休みに、「介助犬の福祉体験の募集」がありました。実際に体験でき、介助犬が、どんなことをしているのか知れたかったので、参加することにしました。

ことで、人と犬との信頼関係ができてくるのです。犬が人の気持ちをはかるなんて、すごいことだと思います。

介助犬がどれほど素晴らしいか実際に体験させてもらうことになりました。

係の人が、

「車いすにすわって下さい。」

と言ったので、ちよつとドキドキしながらすわりました。かぎを落としてみました。介助犬は、落としたかぎをすぐに気付き、口にくわえて、ぼくの目を見て、渡してくれました。その時、犬は、「はい、どうぞ。」と言っているようでした。ぼくも、「ありがとう。」って心の中で言いました。

このように、人のために様々な仕事ができる「一人前？」の介助犬になるのは、大変なことですが、何より人間との信頼関係ができていて、「人と一緒に行動する、仕事をしてほめてもらう事がうれしい。」と感じられる犬でなければ、介助犬にはなれないそうです。

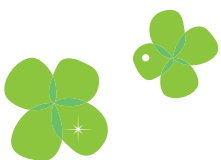
ぼくはこれを聞いて安心しました。介助犬は、たくさんさんの仕事を覚えるために、きびしいトレーニングをするけど、いやいややって

いるのではないとわかったからです。喜びがあるからこそ、自分より何倍も大きくて重い人を助けようがんばっているのです。

しかし、介助犬はとても不足しています。日本では、約一万五千人が介助犬を必要としているのに、介助犬として働いているのは、わずか六十七頭だそうです。あとの一万四千九百三十三頭はどうしているのでしょうか。あまりの少なさにびっくりしてしまいました。

人が好きで、いろいろな仕事を覚えて、それが安全にできるよういきびしい訓練をやりぬく。考えただけでも大変です。そんな介助犬を育てるには、たくさんのお金が必要です。そのお金はなんと、募金や寄付から成り立っているのだそうです。

みんなが介助犬のことをもっと知ったら、寄付だって今より集まるようになるんじゃないかな。僕も、少しでも役に立つように、おこづかいの中から募金したいなと思いました。そして、一人でも多くの人に介助犬がつけるようになってほしいです。



標語 入選

上堺小学校 5年 早川 真史



差しのべる  
やさしいその手が  
つえになる

ポスター 入選



鈴木 優花  
横芝小学校 6年



ポスター 入選



齋藤 龍貴  
白浜小学校 5年



標語 入選

大総小学校 6年 平山 裕理



さりげなく  
さしだしたいな  
やさしさを

作文 入選

東陽小学校 5年

鈴木 海



## 『介助犬を知って』

ぼくは、町でおこなわれた、介助犬の講座に参加しました。

介助犬の仕事は、手足の不自由な人の日常生活を助けるために特別に訓練された犬です。日本には、現在六十頭ほどいて、手足の不自由な人が必要としていることにあわせて、いろいろな介助をします。実際にやっているところを見せてもらいました。

まず、落とした物をひろったり、くつしたをぬがせたりしました。なぜ必要なのかというと、足の不自由な人は腹筋がないから、体をたおしたら元に戻ることができず、車いすから落ちてしまうこともあるからです。

次に、冷蔵庫の開閉をしています。それは、手足の不自由な人は、体温調節ができないため、冷たい水をこまめに飲まなければならないので冷蔵庫の開閉をなんでもしなければいけないからです。

また、携帯電話も探し出すゲームをしていました。犬に目くしをして、携帯電話をかくして、犬は楽しそうにさがしていました。これはなぜ必要かというと、使用者が転んだりした緊急時に助けをよぶためです。ぼくは、介助犬は、とても頭が良くてすごいと思いました。

手足の不自由な人は、一人ではできないことやむずかしいことがたくさんあります。多くの人は、家族やヘルパーなどに手伝ってもらいますが、いつ転んだり、物を落したりするか分からないからといって、ずっと誰かにそばにいてもらうのは大変です。手足の不自由な人も、手伝う人も気をつかって疲れてしまいます。また、人に手伝ってもらえばかりだと、自分で考え、自分で決めて、自分で行動する。自分で責任をもつという自立も難しくなってしまうこともあるそうです。でも、介助犬の

おかげで楽しくてくれます。

手足の不自由な人は、いつでも気がねなく必要なことを楽しめるようになり自立も保てます。介助犬は無理をしたりしてやっているわけではなくとても楽しみながら何度もやってくれるのでそのことは、手足の不自由な人の気持ちを楽にしてくれます。もし自分が人に頼み事をしたときに、いやいやしてもらおうとやな気持ちなので同じだと思いました。

また、使用者も、介助犬にたよられたり世話をしたりすることで、出来る事がある、必要とされていると感じて自信を持ち前向きな気持ちになれる。使用者は、この犬は、必ず自分を助けてくれるという安心感と、何でもいっしょにがんばるという気持ちが生まれます。介助犬は、こうして使用者の心を支える役目もします。これは、機械や道具ではできないことです。ぼくは、介助犬と使用者が本当に強く結ばれているなあと思いました。おだやかで人が好きな犬を選び、愛情たっぷりに育てて、生後一年前後から訓練します。遊びながら楽しくやり、たくさんほめてあげるそうです。一年間位の訓練

で犬は、人と生活するマナーと、いくつかの言葉を理解できるようになります。その後、介助犬を必要とする手足の不自由な人と一緒に数ヶ月の共同訓練をし、初めて介助犬になります。

介助犬は、使用者といっしょに町に出て電車に乗ったり、レストランに行ったりもします。少し前までは、動物なので介助犬もそういった場所には、入ることができませんでしたが、法律が変わって入れるようになりました。ぼくたちがその様子を見かけたときには、を付けなければいけないことは、やさしく無視をしてあげることです。理由は、介助犬は人が好きなので、触ってしまうと、遊ぶことに夢中になってしまつて仕事を忘れてしまうからです。引退後は、一般家庭や使用者の元にペットとして、最後まで家族の一員として人に愛されてすごします。とても犬は愛があるということが分かりました。

ぼくは、介助犬を知つてとてもすばらしいと思ったので皆さんにも知ってもらいたいと思いこの作文を書きました。僕たちは、手足の不自由な人について知らないこ



光中学校 1年  
萩原 麻衣

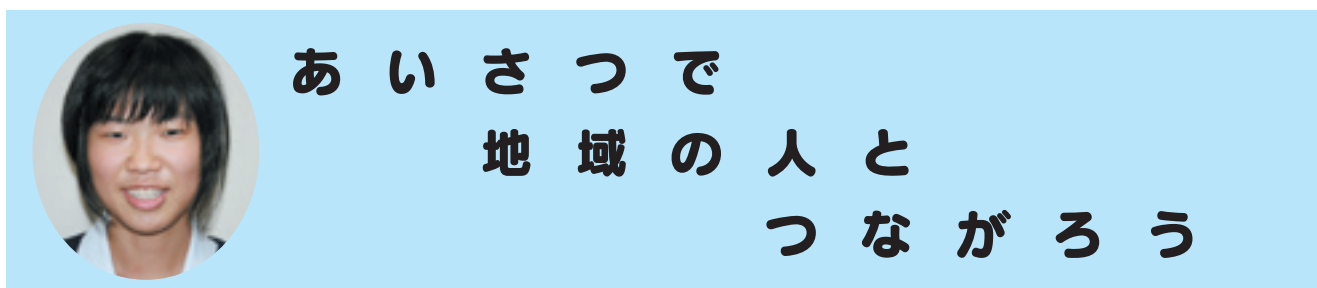
ポスター 入選

とがたくさんあると思います。これからも、少しでも関心をもって、自分にできることがあればやっていきたいと思います。

標語 入選

光中学校 3年

山本 愛香音



ポスター 佳作

白浜小学校 2年  
伊藤 芯



作文 佳作

光中学校 2年  
村越 海奈



標語 佳作

横芝小学校 5年  
中根 花梨



標語 佳作

南条小学校 3年  
山崎 拓実



ポスター 佳作

横芝中学校 2年  
海保 亜矢乃



作文 佳作

東陽小学校 6年  
五木田 萌



ポスター 佳作

大総小学校 5年  
伊藤 七海

## 介助犬が きた!!



### ～福祉体験学習会開催～

町民会館で、福祉体験学習会が開催され介助犬についての勉強をしました。

当日は、町内の小・中学生28人が参加し日本介助犬協会の協力のもと、介助犬の役割や、訓練、普段の生活の様子などについて教えていただきました。

介助犬による介助作業のデモンストレーションでは、物を落とした時の拾い上げや、靴や靴下などの脱衣の介助、ドアの開閉など様々な生活のサポートの様子を見せていただきました。

介助犬は、障害のある方の暮らしや心を支えるパートナーであり、日常生活でできないことや、不自由なことを助ける家族のような存在です。まだまだ実働している介助犬はわずか67頭ですが、必要とされている方へ1頭でも多くの介助犬が育成、普及されることの重要性を認識することができた学習会でした。

## 東陽地区交流会

### 東陽地区社会福祉協議会

10月2日、時折雨が強く降る中、地域のお年寄りに一日楽しく過ごしていただくと共に、小学校児童と交流を図ることを目的として開催された「東陽地区交流会」には、東陽地区にお住まいの70才以上の方130名が参加されました。

式典終了後、東陽小学校3・4年生によるダンス「東陽小よちゅれソーラン」では、鳴子を持って踊る子ども達の迫力に圧倒されていました。昼食休憩の時間には、横芝光町マスコットキャラクター「よこぴー」の登場に歓喜の声があがり、握手をしてもらったり、一緒に写真を撮ったりしていました。



午後からは、花柳流 花芝会 花柳露芝先生による舞踊の他、県立佐原病院地域医療連携室外口徳美致先生による「一人でも少なくしよう糖尿病」と題した歌謡漫談があり、徳美致先生の楽しい話や歌に聴き入っていました。

参加された方々からは、「来年もまた来るからね。」「楽しかった。」など言っていただき、盛会裡に終わりました。